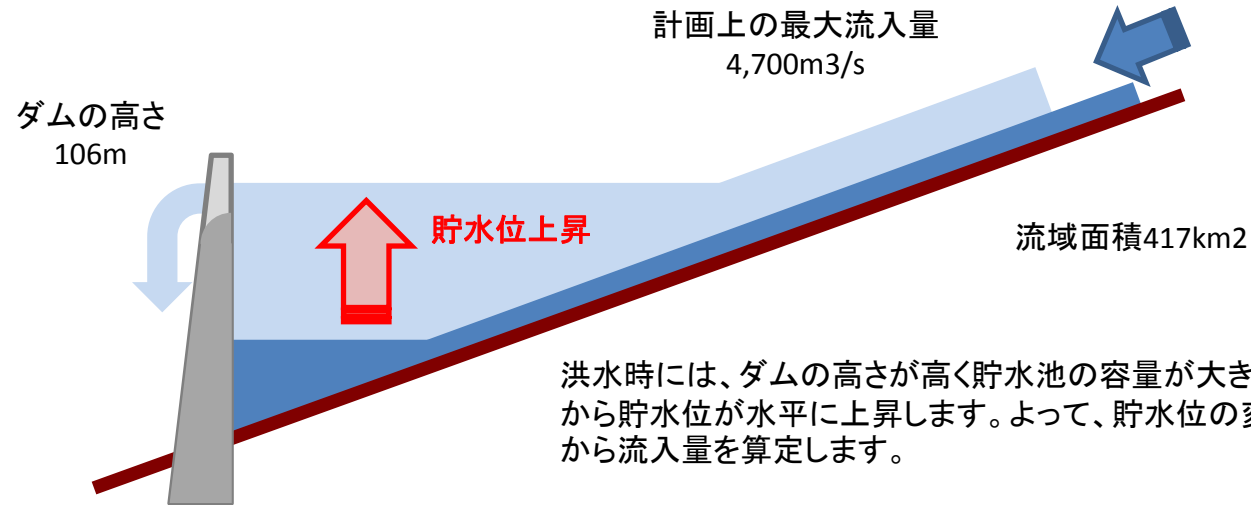
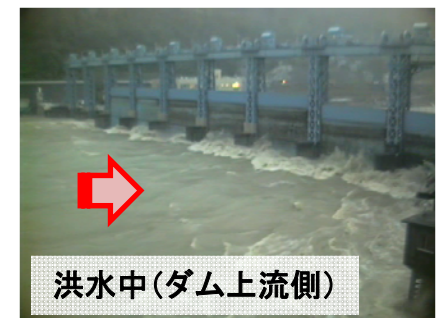
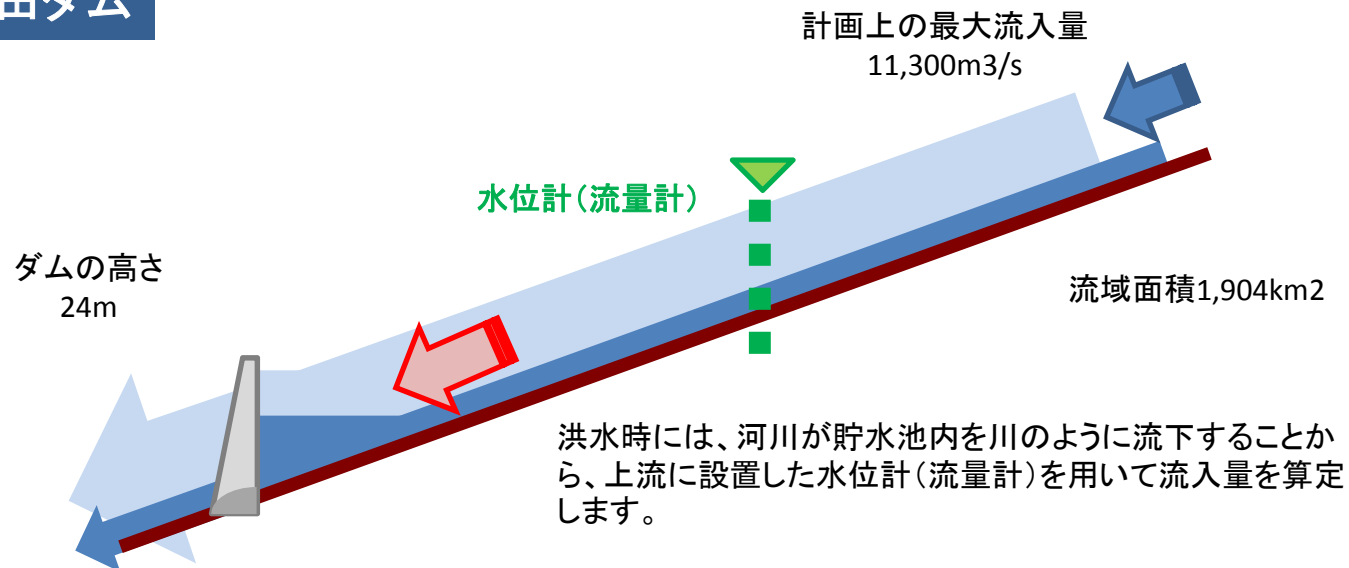


一般的なダムと池田ダムの流入量算定方法の違い

一般的なダム(早明浦ダム)



池田ダム



洪水時における池田ダムの流入量と放流量の差について

- 池田ダムの洪水時における流入量は、貯水池上流に設置した水位計（祖谷口水位計）の流量をもとに算定します。この祖谷口水位計はダム上流9.3kmの位置に設置されており、観測される河川水位から予め定めた換算式を使って算定します。
- 一般的なダムの流入量は、貯水位変化方式と呼ばれる貯水位の変化量によって計算する方式により算定しますが、池田ダム貯水池内では、洪水時には流水が水面勾配を有し川のように流下し、貯水位変化方式よりも上流地点流量のほうが早く流入量を算定できることから、洪水時には、この方式により流入量を算定しています。
- しかしながら、この方式については、上記のようなメリットがあるものの、ダム地点とは異なる地点の流量をダム地点の流入量としているため、ダム地点の放流量とは、どうしても値に多少の差(乖離)が生じてしまいます。ただし平成26年台風12号洪水においては、最大で15%程度の差が生じました。このような大きな差が生じたのは、池田ダムの管理運用開始後平成26年度の洪水が初めてであるため、現時点ではその原因が特定できていません。
- 今後も、これまでのように上流地点流量を流入量として用いてダム操作を継続し、その一方でデータを蓄積して検証を進める予定です。またこのため、今後も表示される流入量と放流量に差が生じる可能性があります。
- なお池田ダムの操作は、流域面積や洪水時の流入量に比べて相対的に洪水調節に使える貯水池の容量が限られているため、流入量が最大となる時の洪水調節操作を除き、基本的には、貯水位の変化を見ながら、流入してきた流量と等しい量を放流する操作を行う、もしくはダムからの自由越流とする操作を行います。このため、上記のような差が生じて、池田ダムの特性から、ダムの操作は適切に行うことが可能です。